

東京国際空港（羽田空港）の新しい滑走路（D滑走路） ～棧橋部全198基の最終ジャケットの製作が完了しました！～ 記者発表資料

国土交通省は、我が国空港ネットワークの拠点空港として極めて重要な位置を占める東京国際空港（羽田空港）において、新たに4本目の滑走路となる『D滑走路建設工事』について、平成22年10月末の滑走路の供用開始を目指し、24時間365日の昼夜連続施工により最速で工事を進めています。

今般、平成21年12月25日（金）に、D滑走路棧橋部（多摩川河口部）の土台となる鋼製のジャケット製作工場として稼働していた新日鐵エンジニアリング富津工場において、全198基の最終ジャケットの製作が完了しました。

ジャケット製作については、2つの一体大組立工場である新日鐵エンジニアリング富津工場及びJFEエンジニアリング千葉工場において製作を進めてきましたが、新日鐵エンジニアリング富津工場においては、全198基中106基の製作を担当し、同ジャケット製作のために新規に整備した工場として、平成19年8月から平成21年12月までの約2年5ヶ月間、ジャケット製作に一貫して取り組んできました。（JFEエンジニアリング千葉工場では、11月21日（土）に製作・出荷が完了。）

なお、最終ジャケットの据付は、平成22年1月中旬に行う予定です。これにより、棧橋部の全てのジャケットの据付が完了します。

（参考）

ジャケットは、格子状構造の鋼桁部分（上部ジャケット）と鋼管部材をトラス状に組み立てた構造物（下部ジャケット）からなり、上部ジャケットを新日鐵エンジニアリング若松工場、JFEエンジニアリング津工場、三菱重工横浜工場で作成した後、海上運搬し、上記の一体大組立工場にて製作した下部ジャケットを溶接により、一体化させ1基のジャケットとするものです。

今回のジャケット製作では、上部ジャケットについては、鋼板最大板厚75mmと非常に厚く、また、完全溶込溶接部については、超音波試験による品質管理（平均約3km/基）といった、溶接分野において非常に高品質の確保を要求された厳しい製作プロセスを経ています。

平成21年12月25日（金）
国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所

同時発表記者クラブ

竹芝記者クラブ	横浜海事記者クラブ	神奈川建設記者会
都庁記者クラブ	千葉県政記者クラブ	東京航空記者会

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所
前任建設管理官 押田和雄・係長 三浦一浩
前任建設管理官 吉田行秀・係長 近藤貴洋
住所 東京都大田区羽田空港3-5-7 メンテナンスセンターアネックス 5階
電話 03-5756-6580
HP <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/>

新日鐵エンジニアリング富津ヤード施工状況

富津ヤード全景・ジャケット出荷状況



ジャケット一体化施工状況



ジャケット完成状況

